



ADRC Highlights

Vol.91

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

April 16, 2004

➤ アメリカ合衆国がADRCのアドバイザー国として加盟

このたび、2004年3月8日付で、アメリカ合衆国がアジア防災センター（ADRC）にとって5番目のアドバイザー国として加盟しました。これまでアメリカは、ADRCが国連OCHA神戸と共同で推進しているTDRM（総合的な防災政策）推進に支援をおこなってきましたが、今後はADRCの正式なアドバイザー国として一層アジアの防災に協力していくこととなりました。

2月6日にカンボジアのシエムリアップで開催された第6回アジア防災センターメンバー国会合

の席上、USAID（米国援助庁）の出席者から加盟申請書が読み上げられ、満場の拍手で歓迎され、その後メンバー国への書面での意見照会を経て、正式加盟が決定しました。米国援助庁（USAID）がADRCへのアメリカ政府の窓口となります。アメリカはさまざまな災害について豊富な知見を有しており、これらをADRCメンバー国との間で共有することができればさらにアジアでの自然災害の軽減に役立つものと考えております。



OFDAのオペレーションルーム

先月3月25日には、所長の西川がワシントンのUSAIDを訪問し、ナツィオス長官他と会談し今後の協力の方向について意見交換しました。また、USAID-OFDA（海外災害援助室）で、海外での大災害発生時にアメリカとしての援助の指揮を行なうオペレーションルームと災害緊急対応支援チームの説明を受けました。

➤ 第31回WMO/ESCAP熱帯性サイクロン委員会がスリランカのコロンボで開催

第31回WMO/ESCAP熱帯性サイクロン委員会が2004年3月1日から6日の6日間にかけて、スリランカ政府の招きによりコロンボで開催されました。この委員会のメンバー国代表、オブザーバー、委員会事務局代表（WMO、UNESCAPおよびTSU）が一堂に会し、ベンガル湾およびアラビア海で発生する熱帯性サイクロンによる被害軽減方策の推進および調整を主題に議論しました。

最近のテクノロジーの進歩にもかかわらず、当該地域の国々は、熱帯性サイクロンの突然の来襲に悩

まされ続けており、その被害軽減活動の地域間協力・調整の推進を目指す委員会メンバー国の防災能力向上が急務となっています。

アジア防災センターからは角崎主任研究員が参加し、防災分野で行っている当センターの活動について発表するとともに、協力の可能性のある分野を提示しました。また、同じ会場で「サイクロン関連予報システムの向上と災害対抗戦略」をテーマに専門会議が開かれ、メンバー国のサイクロン関連災害対抗戦略、およびサイクロンに関する予報システムの向上を目指す戦略についての発表および議論が行われました。この件につきましては角崎主任研究員(tsunozaki@adrc.or.jp)までお願いします。



➤ ADRCスタッフ紹介 (No.17)

□ 主任研究員 石井 琢三(いしい たくぞう)

大阪ガス株式会社からの出向により、昨年10月に参りました石井琢三と申します。大阪ガスでは、都市ガスの原料転換の作業を行ったほか、都市ガスプラントの営業、工業用用途のガス販売を担当しておりました。また、当センター着任前の3年間は、東京の日本ガス協会にて、地方都市ガス事業者の原料転換の指導を行ってきました。



阪神・淡路大震災の際は、大阪ガス自体も大きな損害を被り、国内の他のガス事業者の支援のおかげで、当初の想定よりも早く復旧することができました。このときに非常事態時での救援協力体制の重要性を痛感いたしました。今後機会を見つけては、このときのさまざまな体験、今まで都市ガス業界が行ってきた防災対策、災害対策等をご紹介します。アジア各国の皆様への何らかのお役に立てればと考えております。

➤ お知らせ：4月から新スタッフ2名が着任

この4月1日より、兵庫県庁からの出向で寺西章浩主任研究員がアジア防災センターに着任しました。寺西主任研究員の専門分野は、ライフライン防災(上下水道)です。また同日付で白阪あゆみさんも新しいスタッフとして着任しました。

ご意見・ご要望等があれば右記までご連絡ください。

編集・発行：Asian Disaster Reduction Center(アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 ひと未来館5F

E-mail: editor@adrc.or.jp

TEL: 078(230)5540 FAX: 078(230)5546

誌代・送料： 無料 / 毎月2回発行(予定)